



完訳 エリア随筆 [全4冊]

チャールズ・ラム
南條竹則 訳 藤巻明 註釈

古今東西の
エッセイ文学における
最高傑作、
待望の新訳!!

国書刊行会

【本シリーズの特色】

作家南條竹則による望みうる最上の翻訳。
本篇と続篇を4分冊で刊行。全53編の完訳は戦後初めて。
詳細な註釈を収録。典拠が多い「エリア随筆」を読み解く助けとなる。
各巻に詳しい巻末解説を収録。

四六判/カバー装
本文：280～340ページ
定価：2400円+税
装幀：柳川貴代

完訳・エリア随筆 I 正篇 [上] ISBN978-4-336-05770-9
完訳・エリア随筆 II 正篇 [下] ISBN978-4-336-05771-6
完訳・エリア随筆 III 続篇 [上] ISBN978-4-336-05772-3
完訳・エリア随筆 IV 続篇 [下] ISBN978-4-336-05773-0

I：2014年5月刊 II：2014年8月刊予定 IIIIV：2015年刊予定

国書刊行会

〒174-0056 東京都板橋区志村1-13-15
TEL 03-5970-7421 FAX 03-5970-7427
<http://www.kokusho.co.jp>
e-mail: sales@kokusho.co.jp

刊行の言葉
南條竹則

一生涯、狂気の姉の面倒を見ながら会社員生活をまっとうし、酸いも甘いも噛み分けた達人の眼で、人生の悲喜を細やかな観察と温かいユーモアをもって綴る——明治以来、我が国の読書界が抱いて来たチャールズ・ラム像はまづそんなものだったと思う。人々は彼の随筆をそのように見て、天下の絶品、随筆の華と讃えた。これは少しも間違っていない。

一方で、ラムは幻視の詩人コールリッジの親友だっただけあり、英国ロマン派運動のただなかで、その精神を散文によって体現した人でもあった。ラムの文章のうちのあるものは、絢爛たる色彩と幻想と恐怖にいろどられている。

また彼は優れた演劇批評家であり、都市論の先駆者であり、美を道徳律から解放しようとする「藝術のための藝術」思想の唱道者として、一九世紀末のペイターやワイルドに連なる美学の一系統を担っていた。

「エリア随筆」の翻訳には平田亮木、石田憲次など優れた先人の名品がすでにあるが、全篇に典故を鑲めた象眼細工のようなラムの文章は、訳し方によって千変万化の光芒を放つ。今回の私の拙い翻訳が、従来の翻訳とは別の一面を窺わせるものとなれば本望である。

収録内容

Ⅰ 正篇「上」

古いものに愛着し、古きそれ自体に至上の価値を見出す——（うしろ向きの達人）ラムの面目躍如たる「休暇中のオックスフォード」。《私は馬鹿が好きだ》——愚人列伝、愚人礼賛「萬愚節」ほかを取録。

南洋商會／休暇中のオックスフォード／三十五年前のクライスト・ホスピタル校／人間の二種族／除夜／パトル夫人のホイストに関する意見／耳に関する一章／萬愚節／クエーカー宗徒の集會／学校教師今昔／ヴァレンタインの祭日／全からざる共感／麗女その他夜の恐怖／私の近親／ハーフォードシャーのマッカリー・エンド「解説」チャールズ・ラム小伝

Ⅱ 正篇「下」

中国の古書より説き起こす、奇想天外な美食隨筆「焼豚の説」。ラムの一大道楽だった芝居見物が生み出した珠玉「前世記の技巧的喜劇について」等。

当世紳士道／イナナー・テンブルの昔の評議員達／食前の祈禱／初めての芝居見／夢の子供達——一つの幻想／遠くの文通相手／煙突掃除人の讃／首都に於ける乞食の衰亡を嘆ず／焼豚の説／既婚者の振舞いに対する独身者の苦情／昔の俳優達について／前世紀の技巧的喜劇について／マンデンの演技について「解説」日本におけるラム

Ⅲ 統篇「上」

旅行は嫌いでも散歩が大好きなラムの都市論「昔のマーゲイトの通い船」。定年退職サラリーマンの悲哀を綴る「恩給とり」。一代の説書家ラムの本棚を垣間見る「書物と読書に関する断想」ほかを取録。

序文——故エリア氏の一友人による／Hーシャーのブレイクスムーア／貧しい親類／舞台の錯覚／エリストンの御霊に／エリストン思い出草／書物と読書に関する断想／昔のマーゲイトの通い船／回復期の病人／真の天才の健全さ／キャプテン・ジャクソン／恩給とり／上品な文体／パーバラ・Sー／大聖堂の墓石「解説」『エリア隨筆』について

Ⅳ 統篇「下」

「夢の子供達」とならぶ「一代の傑作」と謳われる名品「古陶器」。娘をおくる父親の心境を描いた「婚礼」等。

生き返りたる友人／サー・フィリップ・シドニーのソネット／三十五年前の新聞／現代芸術の製作に於ける想像力の不毛／新年の成人を言祝ぐ／婚礼／子供の天使——一つの夢／死の床／古陶器／巻間諺説集

チャールズ・ラム

Charles Lamb (一七七五年—一八三四年)

ロンドンに生まれる。一七八二年から一七八九年までクライスト・ホスピタル校に在学し、この時に詩人のコルリッジと親交を結ぶ。その後、東インド会社で30年以上サラリーマンを勤め、恩給をもらって退職した。一七九六年、姉メアリが一時的な発狂の結果、ナイフで母親を刺殺。ラムは、その姉の面倒を見続け、生涯独身を通した。45歳から書き始めた『エリア隨筆』は、ラムがエリアなる人物に仮託して綴った隨筆集。正統全53編からなる。古今東西のエッセイ文学における一大傑作との定評がある。



Charles Lamb
from the first sketch by Daniel Maclise.

ELIA
γλια

「チャールズ・ラムの著作は、文学における
慎みの価値を証明する卓越した実例である。」(ウォルター・ペイター)

「彼が散文に於けるは、キイツが詩に於ける如きものがあつた。
その技実には神が入つてゐる。自分はこれを以つて英文学の双璧としたい。」(平田亮木)

「ラム氏の成功は《時代精神》への順応ではなく抵抗によるものである。
群衆と一緒に歩道を進んでいくのではなく、
知らぬ間に歩道を逸れて逆方向へと足を運んでいる。
本道よりも脇道を好むのだ。」(ウィリアム・ハズリット)